

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第32週 (8/7-8/13) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		32週	31週	30週	29週
小児科		16	18	18	18
眼科		3	5	5	5
インフルエンザ*		20	28	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数  
 下段:定点当たりの患者数  
 「定点当たりの患者数」とは  
 報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	8/7-8/13	7/31-8/6	7/24-7/30	7/17-7/23	7/31-8/6
			32週	31週	30週	29週	31週
小児科	RSウイルス感染症	↓	11	13	7	7	164
	咽頭結膜熱		4	5	14	13	132
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		21	29	30	24	287
	感染性胃腸炎		44	64	77	69	405
	水痘		2	5	3	3	29
	手足口病	↓★★★	128	162	152	145	1044
	伝染性紅斑		0	16	0	0	20
	突発性発しん		10	9	11	16	57
	百日咳		0	0	0	0	0
	ヘルパンギーナ	↓★	82	133	158	112	559
	流行性耳下腺炎		2	6	4	3	31
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		15	13	0	0	70
			0.75	0.46	0.00	0.00	0.33
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	1	0
	流行性角結膜炎		4	0	2	2	27
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	3
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(13件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	70歳代	IGRA検査	結核	女性	90歳代	病原体遺伝子の検出等
結核	男性	50歳代	病原体の検出	腸管出血性大腸菌感染症	男性	70歳代	病原体の検出及びベロ毒素の確認
結核	男性	40歳代	病原体の検出		女性	10歳代	
結核	男性	20歳代	IGRA検査		女性	20歳代	
結核	男性	10歳代	IGRA検査等		男性	30歳代	
結核	女性	40歳代	IGRA検査等		女性	20歳代	
結核	男性	50歳代	病原体の検出等	-	-	-	-

・第32週は、結核8件(139)、腸管出血性大腸菌感染症5件(12)の報告があった。

※ ( )内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第32週のコメント

<RSウイルス感染症> 前週より減少し0.69となった。過去10年の同時期と比べると多い。

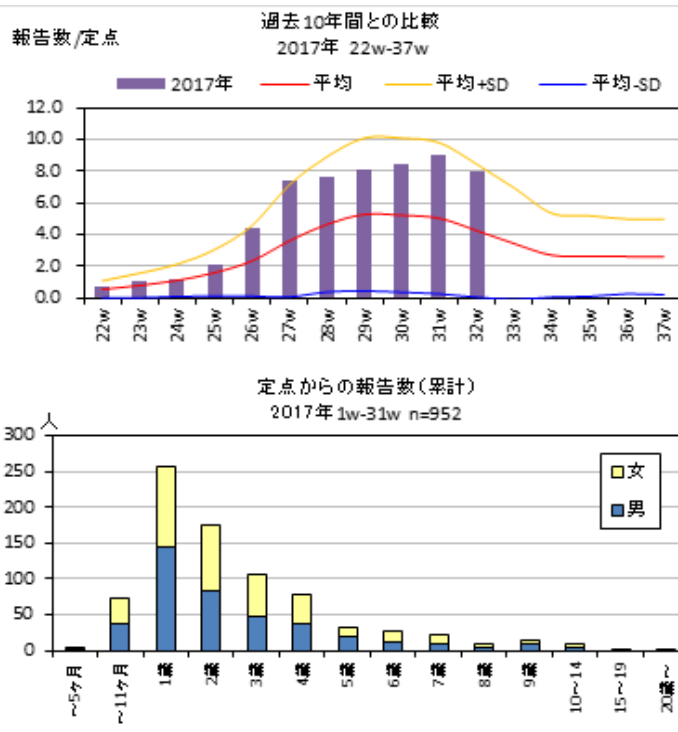
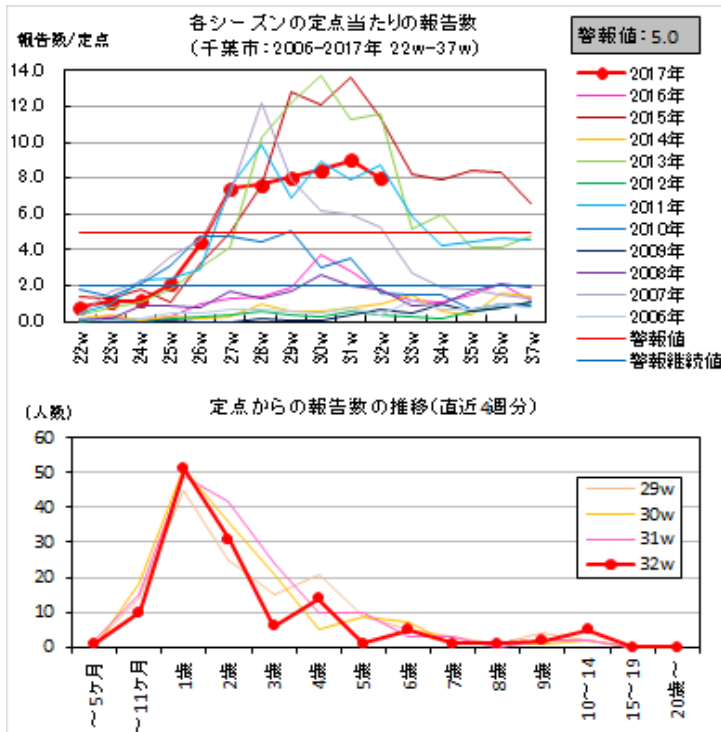
<手足口病> 前週より減少し8.00となった。過去10年の同時期と比べると多い。流行発生警報開始基準値を上回ったまま。

<ヘルパンギーナ> 前週より減少し5.13となり、流行発生警報開始基準値を下回った。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

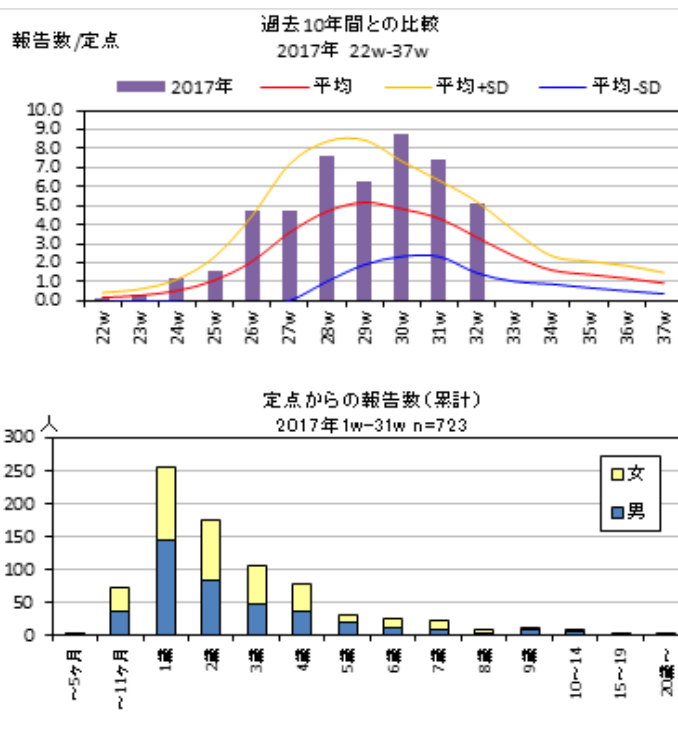
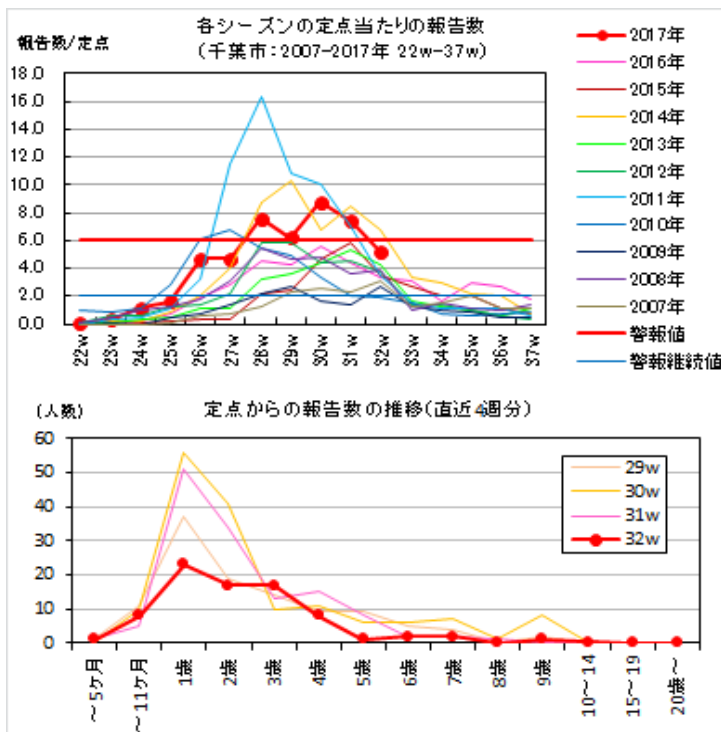
<手足口病>

全国レベルの第31週は、過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、福井県、新潟県、石川県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の第32週は前週より減少し8.00となりましたが、流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、美浜区以外で流行発生警報開始基準値を上回っており、稲毛区(15.7/定点)で最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2017年第1週から第32週までの累積報告数(n=1,080)によると、性別では男性が54.5%(589名)、女性が45.5%(491名)で、年齢階級別では1歳(35.6%:385名)、2歳(20.0%:216名)、3歳(11.1%:120名)の順に多くなっています。



<ヘルパンギーナ>

全国レベルの2017年第31週は過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では秋田県、宮崎県、大分県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の2017年第32週は前週より減少し5.13となり、流行発生警報開始基準値(6.0/定点)を下回りましたが、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(10.7/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。他に若葉区(8.0/定点)で流行発生警報開始基準値を上回っています。2017年第1週から第32週までの累積報告数(n=805)によると、性別では男性が50.7%(408名)、女性が49.3%(397名)で、年齢階級別では1歳(31.9%:257名)、2歳(21.6%:174名)、3歳(13.3%:107名)の順に多くなっています。



## <RSウイルス感染症>

全国レベルでは第19週から過去10年の同時期と比べ最多のまま推移しており、第31週も同様で過去10年の同時期と比べると平均+2SDを上回り大きく流行している状況となっています。都道府県別では福島県、愛知県、鳥取県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の2017年第32週は前週より0.69となりましたが、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、緑区(2.0/定点)で最多で、同区の6~11か月で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2016年第36週から2017年第31週までの累積報告数(n=254)によると、性別では男性が55.1%(140名)、女性が44.9%(114名)で、年齢階級別では1歳(35.0%:89名)、6~11か月(30.3%:77名)、0~5か月(20.1%:51名)の順に多くなっています。

